

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	52	大学等名	津田塾大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム (ギャップイヤー)		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・学年暦の変更により学外（海外）学修が容易に実施できるようになったことは評価できる。また、多様な学外学修を推進するため、「インデペンデントスタディ」、「インターンシップ」、「サービ斯拉ーニング」等の科目を設定し、単位認定の対象としたことも評価できる。
- ・自己評価をするために、学内評価と学外評価を取り入れ、また、PDCAのうち、C (Check) の部分で判明した履修手続きの煩雑さを改善したことは評価できる。
- ・学外学修への参加を躊躇する学生のために学外学修センターが企画した「インデペンデントスタディ型プログラム」に対して、企業等の理解と支援が得られていることは評価できる。また、「多摩アカデミックコンソーシアム」の枠組みを使用するなどして他大学学生にも同プログラムの参加を促すことを検討していることも評価できる。
- ・選定時に付された留意事項への対応のうち、参加率が低かったFDの実施について、平成28年度には87%にまで上昇していることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・学外学修科目について、1単位の随意科目としての成績評価はどのように行っているか不明瞭であるため、明示する必要がある。